

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和元年度  
福島県意見交換会(第1回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局  
2019年6月18日

# ● 目次

---

1. 今年度の意見交換会の方向性
2. 過去の意見交換会
3. 今年度の意見交換会の進め方
4. 議論のテーマ案
5. テーマに関する詳細検討事項

【参考】岩手県のテーマ案

【参考】宮城県のテーマ案

# ● 1. 今年度の意見交換会の方向性

本協議会では意見交換会を、復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を互いに共有し、地域の課題解決に向けて協議・協働を生み出す場と位置付けています。

今年度は特に、副代表団体以外の会員団体の巻き込み・議論の活性化・団体の活動につながる成果創出に注力します。

意見交換会の目的	意見交換会の取組に対するご意見 <sup>*1</sup>
復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を共有し合うとともに、地域の課題解決に向けた、多様な主体による協議・協働を生み出すこと	<ul style="list-style-type: none"><li>民間のパワーを巻き込み、関連するものを具体的なテーマとして扱えると良い</li><li>アイディアだけでなく具体的なアクションに繋げたい</li><li>地域でチャレンジをしている人を、各会員の持つ支援メニューを活用してサポートするスキームが必要</li><li>地域振興に携わる方等にも関与してもらえると良い</li></ul>

## 実施上のポイント

会員団体の巻き込み  
(横の連携)

議論のさらなる活性化

団体の活動につながる  
成果の創出

## 令和元年度 意見交換会の方向性

- ✓ テーマに関する会員団体（「連携対象団体」）に意見交換会へ参加してもらい、地域課題解決に向けた議論や「実践の場」の企画に共同で取り組む。
- ✓ 参加団体<sup>\*2</sup>や連携対象団体の活動をより深め・広げるための活動を「実践」と定義し、意見交換会の成果として自立的・継続的な「実践」を生み出す。

\*1: 3県の第3回意見交換会内の発言を一部引用

\*2: 副代表団体およびオブザーバーとして参加いただく団体

## ● 2. 過去の意見交換会

過去2年間の意見交換会では、地場産業等の人材不足対応策（特に、暮らし方・働き方の理解促進）をテーマに議論を展開。

今年度以降もテーマは継続し、取組を拡大・深掘りすることが必要、との意見が挙がっておりました。

### 平成29年度

#### 人材×日本酒

- 第1回
- 趣旨説明
  - 活動紹介

- 第2回
- 活動紹介
  - テーマ議論

- 第3回
- 活動紹介
  - テーマ議論

- 第4回
- 活動紹介
  - 調査内容の検討

#### 福島県産品・伝統工芸品のPR

- 第5回
- 活動紹介
  - 調査結果を議論
  - 来年度テーマの検討

### 平成30年度

#### 食・観光・伝統工芸など 地場産業の担い手確保

- 第1回
- 趣旨説明
  - 活動紹介
  - 当年度のテーマの検討

- 第2回
- 活動紹介
  - テーマ議論
  - イベント内容の検討

「ふくしまキャリア探求ゼミ」  
福島県にU/Iターンをして新たな生活・仕事  
のスタイルを確立した先駆者の実体験を伝え、  
理解を深めてもらうためのワークショップ

- 第3回
- 活動紹介
  - イベントの振り返り
  - 来年度以降のテーマ案検討

### 今年度以降のテーマ案

福島県で働く人を増やすため、平成  
30年度と同様、福島県での暮らし  
方・働き方に関する理解促進をテー  
マに取組を行う。これまでの取組と  
の連続性を持たせる。

#### <取組の具体案>

- よりヒーロー像を広くして「身近  
なヒーロー」も知ってもらう  
(業種・職種、所属組織の規模を  
変える)
- ヒーロー候補者のリスト化・公表  
を行い、多くの人に知ってもらう
- 話を聞くだけでなく、現場を見る  
経験もしてもらう

### ● 3. 今年度の意見交換会の進め方

昨年度同様、全3回の意見交換会と「実践の場」を開催予定です。

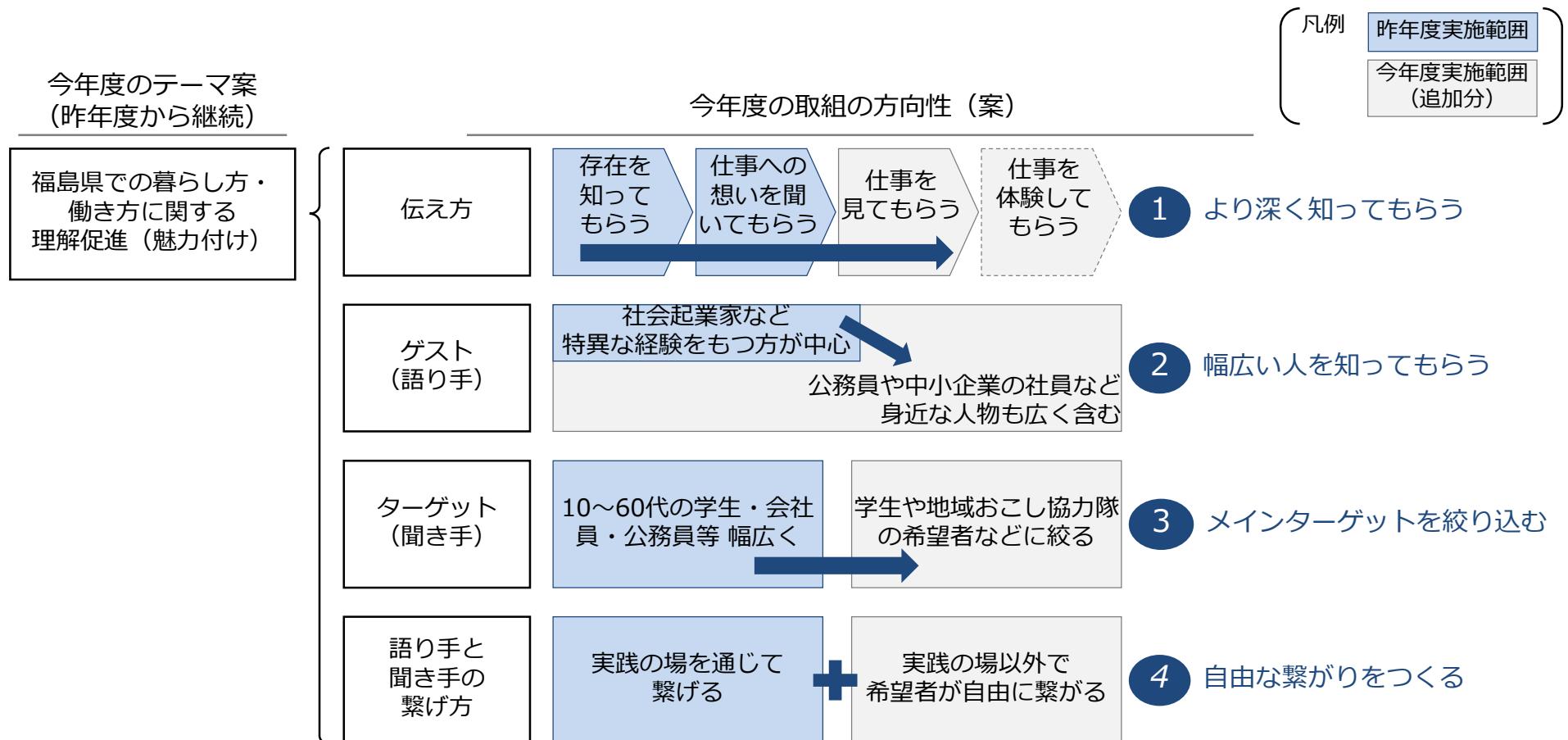
テーマに関わりの深い「連携対象団体」に第2回の議論から参画いただくことで、地域でチャレンジしている人を巻き込んだ「実践の場」の企画や、「実践」の継続を目指します。

	実施事項（案）	取り組みのポイント
第1回	<ol style="list-style-type: none"><li>意見交換会の趣旨、過去経緯（他県含む）の説明</li><li>今年度の方針説明</li><li>参加団体の今年度活動内容の紹介</li><li>今年度テーマの検討（連携対象団体の検討含む）</li></ol>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ テーマを決定するとともに、第2回以降から参画してもらう連携対象団体についても議論する</li></ul>
第2回	<ol style="list-style-type: none"><li>参加団体の活動紹介</li><li>連携対象団体によるプレゼンテーション等</li><li>テーマ議論</li><li>「実践の場」の内容検討（連携対象団体を企画時から巻き込む）</li></ol>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 連携対象団体より、現在の活動内容やテーマに対する問題意識・展望などについて共有してもらう</li><li>✓ 上記を踏まえて、地域でチャレンジをしている人を巻き込んだ「実践の場」や連携の在り方を議論する</li></ul>
	「実践の場」の詳細設計～開催～結果整理	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 会員団体の生業（活動）を深化・拡大させることや、継続的なアクションに繋げることを目的とする</li></ul>
第3回	<ol style="list-style-type: none"><li>参加団体の活動紹介</li><li>「実践の場」の振り返り、今後の展望の議論</li><li>来年度以降のテーマ案の検討</li></ol>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 「実践の場」の振り返りに加え、今後の活動や体制を、自立的に継続させるための議論を行う</li></ul>
	「実践」の継続	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 今年度の意見交換会終了後も、「実践」を継続する</li></ul>

## ● 4. 議論のテーマ案

今年度も従前のテーマを引き継ぎ、「福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進」をテーマとする想定です。

また、具体的な取組に関しては昨年度のご意見を踏まえて、事務局素案として以下4案をご提案します。



## ● 5. テーマに関する詳細検討事項

テーマに対して具体的に議論できるよう、背景・狙いや連携対象団体の候補についてご意見を頂きたく存じます。

1 より深く知ってもらう

2 幅広い人を知ってもらう

OR

3 メインターゲットを絞り込む

4 自由な繋がりをつくる

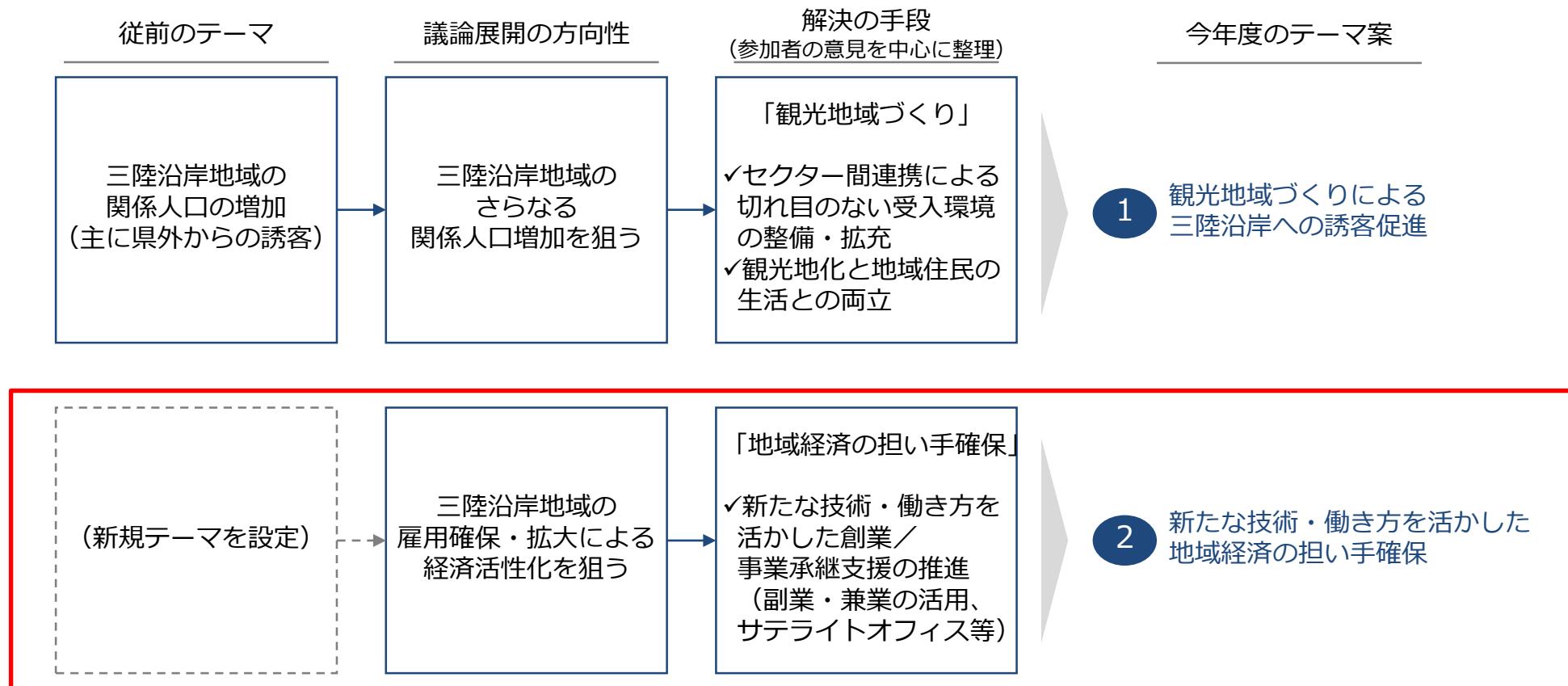
テーマ  
設定背景

従前の検討・取組を継続

狙い	仕事の具体的な内容を伝えることで、働き方や魅力をより具体的に理解してもらう。	多様な働き方を伝える 又は 聞き手をある程度絞ることで、聞き手一人ひとりに合ったロールモデルを見つけてもらう。	福島県に興味をもった人が、自ら様々な人物・ストーリーを検索し、知ることのできる仕組みづくりを目指す。
連携対象団体 (イメージ)	・昨年度のゲスト	・県内の企業・NPO・自治体に所属する「身近なヒーロー」	・県内の企業・NPO・自治体等 ・県内の学校
実践の場 (イメージ)	写真等を用いた仕事内容・職場の雰囲気の紹介や、仕事の簡単な疑似体験（ロールプレイ等）を行うワークショップを開催。	ゲストを変更し、「ふくしまキャリア探求ゼミvol.2」を開催。	・「福島県で働く人の魅力を県外に紹介する」をテーマとしたアイディアソンを実施。
成果 (イメージ)	・県内住民/移住希望者に対して、より強く魅力付けができ、就転職を希望する人が現れる。	・幅広い（又は明確なターゲットに対して）県内住民/移住希望者に対して魅力付けができると共に、今後の協議会活動に巻き込みやすくなる。	・実践の場で検討したアイディアをもとに、参加団体が各自の活動の一環で情報を発信し、福島に関心をもつ人がより手軽に連絡を取れるようになる。
論点	・コンテンツを充実させるため方法 (例：他イベントとの共同開催)	・「身近なヒーロー」の探し方 ・昨年度の振り返りを踏まえた、イベントの改善点	・情報の受け取り手のターゲット ・類似の取組（移住事例集や移住サポートメディア等）との棲み分け、又は連携方法

## ● 【参考】 岩手県のテーマ案

岩手県では、三陸沿岸地域の経済活性化を狙い、「新たな技術・働き方を活かした地域経済の担い手確保」のテーマに沿って検討する予定です。



テーマ案②に沿って検討

## ● 【参考】宮城県のテーマ案

宮城県では、昨年度実施した「南三陸をつなげる30人」の取組を発展させるか、もしくは別テーマを設定する予定です。

